

平成 21 年度学校体育振興事業
「中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践校」
研究報告書

学校名	みなみさつまいちりつかさきちゅうがっこう 南さつま市立笠沙中学校
-----	-------------------------------------

校長名：日高淑夫

所在地：鹿児島県南さつま市笠沙町 2362 番地

電話番号：0993-63-0049

武道必修化に伴う地域連携事業における柔道
授業に関する研究

I 研究実践校の概要

1 学校・地域の特色及び実態

本校は全校生徒 56 人の小規模校である。

元々本校は、ダンスを実施していたため、すべての生徒が武道に触れることはほとんどなかった。

そのため、地域・保護者の間でも武道に対する認識があまりなく、柔道に対するイメージも「怪我をしやすい」「教育効果がどの程度あるのか」等、どちらかと言えば、マイナスのイメージが多かった。

また、今回柔道の授業の実施に伴い柔道衣の購入を依頼したところ、保護者負担については難しいところもあった。

一方生徒は、素直で優しい子が多く、体育の授業も非常に好きである。しかし、今回の柔道の実施に対しては、やったことがない不安からか、肯定的な意見は聞こえてこなかった。

2 学校の概要 (平成 21 年 5 月 1 日現在)

	1 年	2 年	3 年	特別支援 学級	計	
学級数	1	1	1	0	3	
生徒数	男	12	6	10	0	28
	女	6	8	14	0	28

教員数 11 名 (保健体育科 1 名)

武道・ダンスの授業の状況

領域: 武道 領域の内容: 柔道

	1 年	2 年	3 年	特別支援学級	計	
配当時間	12	0	0	0	12	
担当教員数 (外部指導者)	1 (1)	0	0	0	1 (1)	
生徒数	男	12	0	0	0	12
	女	6	0	0	0	6

領域: ダンス 領域の内容: 創作ダンス・現代的なリズムのダンス

	1 年	2 年	3 年	特別支援学級	計	
配当時間	6	12	12	0	30	
担当教員数 (外部指導者)	1	1	1	0	1	
生徒数	男	12	6	10	0	28
	女	6	8	14	0	28

II 研究の内容及び成果等

【研究成果の要点】

- 1 新学習指導要領の武道必修化に向けた地域連携指導実践校指定を受け、畳、投げ込みマット等の環境整備が整い、より安全に充実した柔道学習ができるようになった。
- 2 地域連携指導者との授業展開により、より専門的な授業が展開できた。特に礼法指導・技術指導は、柔道の特性に十分に触れながら指導ができ、ほとんどの生徒が「柔道が楽しい」と感じるようになった。
- 3 地域連携指導者との役割分担によって、きめ細かな個別指導が可能になり、受け身や投げ技の技能定着度が高かった。また、安全にも十分留意でき、事前に心配されたケガが 1 つもなかった。

1 研究主題等

(1) 研究主題

「武道必修化に伴う地域連携事業における柔道授業の在り方」

(2) 研究主題設定のねらい

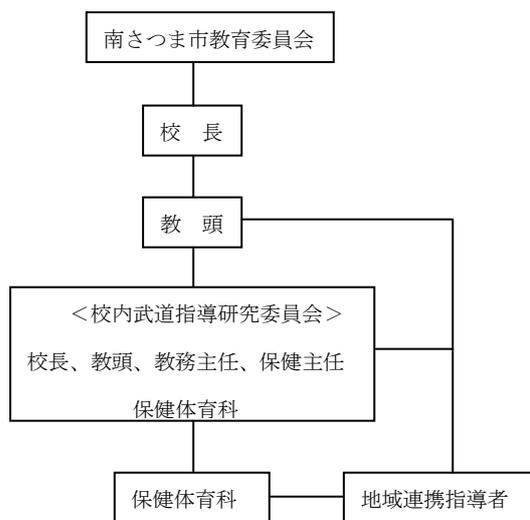
平成 24 年からの中学校武道の完全実施を 3

年後に控え、武道を実施したことの無い本校には基盤をどのように作ればいいのかという大きな課題があった。

また、地域や保護者も武道に対して「どれだけの効果があるのか」と疑問視する声も多く、そのようなマイナスのイメージを払拭するためにも、武道を学習することによって、生徒が明らかに変化したという結果が必要であった。

そこで、この事業において、地域連携指導者と指導することで、より多くの生徒に興味・関心を持たせ、生徒に柔道の基本的な知識や技能を身に付けさせるには、どういう授業を展開すればいいのかをねらいとし本研究主題を設定した。

(3) 取組体制



(4) 主な取組

地域指導者と連携して柔道の授業を進めるにあたり、校内武道指導研究委員会において主に次の三点について共通理解を図った。

- ① 評価規準について
 - ② 指導計画(全12単位時間)・・・【表1】参照
 - ③ 保健体育担当教員と地域連携指導者の役割分担
- そして、毎時間の授業前に役割分担等の

具体的な打ち合わせを実施し、生徒の習熟状況を確認しながら、指導にあたった。

1月から保健体育担当教員と地域指導者の2人で柔道授業を実施し、地域連携指導者は、技能習得のポイントをはじめ、柔道の作法・所作、特性や成り立ち、相手を尊重する心について指導した。

本校には柔道部がなく、1年生全員が初心者であることから、示範を重視し、段階的な指導を進めていく必要がある。そこで、2人が「取」と「受」になり、ゆっくり実演を行う中で、地域連携指導者は、技を身に付けるための運動の行い方のポイントを指導した。

さらに、2人で分担し、男女の個別指導や習熟度に応じた学習の場における指導・助言をきめ細かく行った。

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 具体的な研究課題

- ① 生徒に柔道の基礎的技能・知識を習得させるにはどうすればよいか。
- ② 生徒が興味・関心をもって取り組むにはどうすればよいか。
- ③ 生徒が安全に柔道に関する動きを身に付けるためにはどうすればよいか。

(2) 取組

① 単元の指導計画の作成

「柔道」の単元の指導計画を地域連携指導者と話し合いをもちながら作成した。1年生全員が初心者であることから、示範を重視し、段階的な指導を進めていく必要がある、学習内容や指導の流れをどのようにすればよいか確認した。最初は柔道の作法・所作、特性や成り立ち、相手を尊重する・心などを地域連携指導者の方に講話をしてもらい、体さばきや受け身などの基礎基本を習熟できるように計画を立てた。

【表1】

指導と評価の計画 【12時間】

時数	学習のねらいおよび学習活動	学習における具体的評価基準・評価方法			
		関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
1	学習1 オリエンテーション ・柔道の学習の仕方や練習方法を学ぶ ・柔道に関する興味・関心を高める。	①礼儀正しい態度で関心を持って学習に臨み、柔道を学ぼうとする。 (観察)			①柔道の歴史や特性、礼法の重要性について書き出している。 (学習ノート)
2 3 4 5 6	学習2 柔道に必要な基本動作と技を身につけて楽しむ ・柔道に必要な基本動作を身につける。 ・繰り返しの回数が多くなならないようにし、2人組で動きに変化をつける。 ・段階を追って技能を高める。 ・投げ技・固め技と基本動作を関連付けて身に付ける。	②新しい技を習得する喜びを味わい、柔道を楽しもうとする。 (観察、学習ノート)	①技を習得するための課題を見つけ、練習や試合の仕方を選択している。 (観察、学習ノート) ②仲間と協力し、考え、教えあいながら、課題の解決に向けた方法を見つけている。 (観察、学習ノート)	①投げ技と関連する基本動作ができる。 (観察) ②固め技と関連する基本動作ができる。 (観察)	②基本動作の重要性と方法について言ったり書き出したりしている。 (観察、学習ノート) ③基本となる技の名称をあげている。 (観察、学習ノート)
7 8 9 10 11	学習3 身に付けた技能を用いて、総合的な練習、簡易な試合を工夫して楽しむ。 ・段階を追って技能を高める。 ・3人組の練習、課題を確認し、練習方法を工夫する。 ・柔道の実際の動きに必要な新しい技能を身に付ける。	③練習や簡易な試合において、ルールや禁止事項を守り、自他の安全に留意して行動しようとする。 (観察、学習ノート)	③技を習得するための課題を見つけ、練習や試合の仕方を選択している。 (観察、学習ノート) ④簡易な試合を通して自分の課題を発見している。 (観察、学習ノート)	③基本となる技を施すことができる。 (観察)	④基本となる技の名称をあげている。 (観察、学習ノート) ⑤簡易な試合での試合方法やルールについて言ったり書き出したりしている。 (観察、学習ノート)
12	まとめ 学習のまとめ ・発表会を通して技のポイントと自分の課題を整理し、技術的な理解を深める。 ・個人のノート記録をもとに、学習を振り返り、まとめをする。	④礼儀正しい態度で関心を持って学習に臨み、柔道を学ぼうとする。 (観察、学習ノート)		④基本となる技を施すことができる。 (観察)	⑥柔道の歴史や特性、礼法の重要性について書き出している。 (学習ノート)

② 指導案、ワークシートの作成

・・・【表2】【表3】

地域指導者との連携を図りながら、授業をどのように行うか打合せを十分行った。

【表2】の指導案がその例である。課題解決学習を取り入れることにより、生徒は、お互いが協力しながら取り組み、地域連携指導者や教師が巡視しながら、個別に

指導ができる方法をとった。

授業終了後は毎回打合せを行い、次時の指導に役立てた。

【表3】のワークシートは、授業の終末時や宿題として活用し、授業の振り返りをさせ、次時につなげられるようにした。

自己評価はABCの3段階で評価し、達成度の確認に役立てた。

【表2】前回り受け身と出足払いの指導案

本時の実態 5/12			
段階	学習内容と学習活動	指導上の留意点	評価基準・評価方法
導入 15分	1 準備運動 2 集合、整列→礼 3 出欠確認、健康観察 4 受け身 5 本時の学習内容の確認 前回り受け身と出足払いを身に付けよう。	・体育委員の号令で円滑に進める。 ・一つ一つの運動を正確に行う。 ・整然と整列し、座礼をさせる。 ・柔道衣の着方や座礼の仕方について師範し、指導する。 ・学習のねらいや、安全に関する注意事項を確認する。	【関・意・態】① 礼儀正しい態度で関心を持って学習に臨み、柔道を学ぼうとする(観察) 【知・理】② 基本動作の重要性と方法について理解している。
展開 30分	1 前回り受け身 2 膝車の確認 3 出足払い	◆前回り受け身の取り方と留意点について説明する。 ・4～6列横隊をつくり、片道で2回受け身を取る。前のグループに続いて1往復行う。 ◆指導者がポイント出声に出して確しながら、受け身を取らせる。 ◆2人組で1人が補助をして、受け身を取らせる。 ・1人が横から手を引いて、 ◆膝車について簡単に説明し、確認する。 ・技の留意点を再度確認する。 ・相手に右膝をつかされた状態で投げる。 ・立ち姿勢から50%の勢いで投げる。 ・立ち姿勢から自然に投げる。 →それぞれ3回目に投げる。(転がす) ◆出足払いの投げ方と留意点を説明する。 ◆相手と組む前に1人足払いを行う。 ◆相手をしゃがませ、右足を前に出させた状態から投げる。 →1回ずつ交互に3回投げる。 ◆立ち姿勢から50%の勢いで投げる。 →1回ずつ交互に3回投げる。 ・受け身の練習も兼ねているので、しっかり受け身を取らせる。	【技】① 投げ技と関連する基本動作ができる。(観察) 【関・意・態】② 新しい技を習得する喜びを味わい、柔道を楽しむとする。(観察) 【思・判】① 技を習得するための課題を見つけ、練習や試合の仕方を選択している。
整理 5分	1 整理運動 2 集合、整列 3 まとめ 4 健康観察 5 次時の予告、礼	・体操・深呼吸 ・服装を正し、整然と並ばせる。 ・本時の自己評価、感想 ・正しい礼法であいさつをさせる。	

- (3) 評価
① 投げ技との関連が深い前回り受け身を正しく身に付け、より安全に、かつ確実に受け身を取ることができたか。
② 出足払いを正しく、安全に施すことができたか。

③ 授業での地域連携指導者の活用

全12時間の中で最初は地域連携指導者に、技能習得のポイントをはじめ、柔道の作法・所作、特性や成り立ち、相手を尊重する心などについて指導してもらった。

毎回、授業の前には本時の内容と重点ポイントの確認をして授業に臨んだ。

授業の中では、個別指導や男女で課題解決学習をする中での指導、助言をお願いした。

授業後には、本時の内容を振り返り、生徒の習熟度の確認をした後、次時の打ち合わせを欠かさず行った。



【地域連携指導者の指導】

【表3】ワークシート

柔道ワークシート

氏名()

1 今年から初めて柔道を習いましたが、授業を受ける前は柔道に対して、どんなイメージを持っていましたか？

2 身に付けた技能の自己評価をしてみよう。

A:上手にできる B:できる C:やり方は分かるが上手くできない

項目	評価	項目	評価	項目	評価
正座		前回り受け身		膝車	
礼法(座礼)		けさ固め		出足払い	
礼法(立礼)		横四方固め		支え釣り込み足	
後ろ受け身		抑え技逃げ方(エビ)		大腰	
横受け身		抑え技返し方		試合の礼法	

3 柔道の授業が一番楽しかったこと、きつかったことを書きましょう。

楽しかったこと

きつかったこと

4 授業を終えての感想を書きましょう。

④ 授業での教師の取組

1年生全員が初心者であることから、示範を重視し、段階的に技術を習得できるよう指導に留意した。地域連携指導者と教師で「取」と「受」になり、ゆっくり実演を行う中で、地域連携指導者には技を身に付けるための運動の行い方のポイントを指導してもらった。

また、課題解決学習では、各グループを巡回指導し、生徒の達成度を観察しながら評価をしていった。そして、個別指導が必要な生徒には、アドバイスをし、援助していった。

また、生徒が身に付けた技をいつでも振り返ることができるように、技のポイントを書いた資料を武道場に掲示した。



【教師による巡回指導】

⑤ 道具を有効利用した取組

投げ技への移行で、投げ込みマットが非常に効果があった。

通常、支え技系か刈り技系から投げ技に移行する際に、高い所から投げられる恐怖で受け身をしっかりとれなかったり、投げる方も思い切り投げなかったりする等、様々な弊害が予想される。

しかし、最初に投げ込みマットで受け身の感覚、投げる感覚を十分覚えさせた後に、畳に移行したところ、生徒にほとんど恐怖感がなく、女子生徒も投げ技にスムーズに移行できた。



【投げ込みマットから畳に移行して投げ技をかける様子】

(3) 成果

単元終了後に事後研究会を行い、成果や課題について指導主事はじめ地域連携指導者の方たちと研究協議を行った。

これまでの実践から次のような成果が得られた。

① 新学習指導要領の武道必修化に向けた、

地域連携指導実践校指定を受け、畳、投げ込みマット等の環境整備が整い、より安全に充実した柔道学習ができるようになった。

② 地域連携指導者との授業で、より専門的かつ安全な授業が展開できた。特に礼法指導、技術指導は柔道の特性に十分に触れながら指導ができ、ほとんどの生徒が「柔道が楽しい」と感じるようになった。

・・・【表4】

③ 地域連携指導者との役割分担によって、きめ細かな個別指導が可能になり、受け身や投げ技の技能定着度が高かった。また、安全にも十分留意でき、事前に心配されたケガが1つもなかった。地域の指導者との連携から、より専門的な知識や技能を生徒に指導できるようになった。

【表4】アンケート結果

<授業前アンケート>

1 あなたは柔道に対してどんなイメージを持っていますか？

- 痛そう、怖そう・・・12人
- 難しそう・・・2人
- 楽しそう・・・2人
- その他・・・2人

<授業後のアンケート>

2 授業を終えての感想を書きましょう。

- 最初は怖かったけど、やっていくうちに楽しくなった。・・・8人
- 受け身や技を覚える度に楽しくなってきた。・・・5人
- もう少し技を習いたかった。・・・2人
- 楽しかったけどきつかった。・・・2人
- その他・・・1人

(4) 課題

また、これまでの実践から次のような課題が明らかになってきた。

- ① 男女差や習熟度への対応をどうするか。
- ② 保健体育担当教員と地域連携指導者の役割分担と事前、事後打合せの時間確保をどうするか。
- ③ 柔道授業を実施する上で、地域、保護者の「なぜ柔道か」という声等に理解を得られるためにはどのような取組が必要か。

3 研究成果の普及

今年度は1年生のみを対象に実施したため、まずは学級PTA等を通して1年生の保護者に授業前と後での変化の様子、授業での取組等を報告したいと考えている。

同様に、PTA事業部会、小中連携部会等でも報告し、武道学習についての理解を求めている。

特に小学校には、受け身とマット運動との関連性、柔道動作に結び付く体づくり運動等を紹介したうえで、授業の中で実施してもらい、柔道学習へスムーズに移行できるように協力をお願いしたいと考えている。

4 今後の展望

今年度は、地域連携指導者と2人体制で指導した結果、予想以上に生徒に武道の特性、楽しさを伝えることができ、また、技能の習得も早かった。そして、何よりケガ人が1人もでなかったことが大きな成果であった。

しかし、来年度以降は保健体育担当教諭1人で授業を展開していくことになるため、今年度以上に質の高い授業を実施するために、指導者講習会や先進校への積極的な参加や視察等を計画し、指導技術を高めていかなければならない。

また、可能なかぎり、来年度も地域連携指導

者に、全時間ではなくとも、要所で授業に参加して指導していただいたり、授業以外でも指導の協力を得られるように連携を深めていきたい。

そして、毎年武道学習を実施する度に、生徒はもちろんのこと、保護者、地域も理解が深まるように、研修に努めていきたい。

5 資料等



【畳の購入で新しくなった武道場】

柔道ワークシート

氏名 ()

1 今年から初めて柔道を行いました。授業を受ける前様柔道に対して、どんなイメージを持っていましたか？

・危ない
・こわい
・格闘い

2 身に付けた技能の自己評価をしましょう。

A: 上手にできる		B: できた		C: やり方部分があるが上手くできない	
項目	評価	項目	評価	項目	評価
立身	A	前屈肘掛け	A	脚差	A
相違 (姿勢)	A	引き寄せ	A	組み込み	A
相違 (足立)	A	横面立身	A	実技練習満足	A
持ち寄り身	A	脚差立身 (正記)	B	実技	B
横面立身	A	脚差立身	B	試合の満足	B

柔道ワークシート

氏名 ()

3 柔道の授業で一番楽しかったこと、思ったこと

楽しかったこと
最後の試合
思ったこと
ほめる指導

4 授業を終えての感想を教えてください。

初めて柔道を行いました。思っていた以上に上手にできました。楽しかったです。上手にできました。

2 身に付けた技能の自己評価をしましょう。

A: 上手にできる		B: できた		C: やり方部分があるが上手くできない	
項目	評価	項目	評価	項目	評価
立身	A	前屈肘掛け	A	脚差	B
相違 (姿勢)	A	引き寄せ	A	組み込み	B
相違 (足立)	A	横面立身	A	実技練習満足	B
持ち寄り身	A	脚差立身 (正記)	B	実技	B
横面立身	A	脚差立身	B	試合の満足	B

3 柔道の授業で一番楽しかったこと、思ったこと

楽しかったこと
足ら
思ったこと
受け身

4 授業を終えての感想を教えてください。

足らない部分があった。
大層楽しかったです。
受け身は少しづつ上手にできるようになりました。
足らない部分があったので、練習したいと思います。

【授業後の生徒のワークシートから】



【訪問指導 (授業研究・指導助言)】